

新潟市教育委員会 令和3年9月 定例会会議録

日 時	令和3年9月28日(火) 午後3時30分			
場 所	新潟市役所 ふるまち庁舎 4階 教育会議室1			
教育長	井崎 規之			
出席委員 (8名)	田中 賢一	出席委員	五十嵐 悠介	
	小野沢 裕子		齋藤 昭彦	
	市嶋 洋介		乙川 千香	
	渡邊 純子	欠席委員		
	大宮 一真			
会議出席 教育委員会 事務局職員 (7名)	職・氏名		職・氏名	
	教育次長	池田 浩		
	教育次長	本間 金一郎		
	教育総務課長	渡辺 和則		
	学校人事課長	吉田 亨		
	学校支援課長	山田 哲哉		
	教育総務課 課長補佐	佐藤 夏樹		
	教育総務課 係長	秋山 悟		
他部署 出席者(0名)				

開会	時刻	午後 3 時 30 分
	宣言者	教育長
付議事件 (1 件)	議案第 20 号	教職員の人事措置について
報告 (2 件)	令和 3 年度全国学力・学習状況調査の結果について	
	令和 3 年度新潟市教育委員会表彰被表彰者の選考結果報告について	

第1 開会宣言

- 教育長 これより、9月の教育委員会定例会を開催いたします。
本日は報道関係者はおられません。なお、会議中に、報道関係者より委員会を撮影及び録音したい旨の申し出がありましたら、これを許可することに御異議ありませんでしょうか。
(異議なし)
それでは、許可することで決定いたします。

会議録署名委員の指名

- 教育長 日程第1 会議録署名委員の指名を行います。
新潟市教育委員会会議規則第11条により、会議録署名委員に齋藤委員及び乙川委員を指名します。

第2 付議事件

- 教育長 日程第2 付議事件に入ります。
はじめに、議案第20号 教職員の人事措置については、人事案件であることから、非公開としたいと思いますが、ご異議ありませんでしょうか。
(異議なし)
よろしければ公開案件の終了後に非公開案件として再開し、審議します。

第3 報告

- 教育長 続きまして日程第3 報告に入ります。
はじめに、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、学校支援課から説明をお願いします。
- 学校支援課長 よろしくお願ひします。資料、報告1をご覧ください。
下に文が書いてありますが、全国学力・学習状況調査について、2年ぶりでしたが、今年度5月27日に新潟市内全小・中学校及び高志中等教育学校前期課程で行いました。
上の段に、小学校6年生の国語・算数・合計を示しています。下の段に、中学校3年生の国語・数学・合計の結果を示しています。今年度も令和元年度と同じく、知識と活用を一体的に扱う調査問題でした。
なお、今年度の各2教科の新潟市の平均正答率は小中学校ともに全国の数値を上回っています。資料には示していませんが、小中学校の2つの教科いずれについても、何問できたかを表す正答数をグラフで表しましたが、その分布を見ますと全国とほぼ同じ分布を示すことから、全国と同様の正答状況と考えることができました。
これにつきましては、昨年度休校等がありまして授業そのものが終わるか終わらないか、学校も大変苦慮されたと思いますが、しっかりと学力が定着するように学校で取り組んだ結果、コロナによる休校等の影響が著しく表れたととらえることができない成果が表れていると認識しています。

つづきまして、報告2から5まで質問紙の結果を示しています。今回の学習状況調査の質問紙は69の質問で構成されています。新型コロナウイルスによる臨時休校等の影響を問う4項目が加わるなど、令和元年度より項目数は多くなりました。GIGA スクール関連でICTの活用状況の設問も加わっています。表の見方ですが、左側から質問事項、次に児童質問紙と書いてあるのは、小学校です。左から、新潟市、県、全国の平均です。続いて、右側の生徒質問紙というのが、中学校です。先ほどと同じように、新潟市、県、全国の平均です。

1つ1つについては、のちほどご覧いただきたいのですが、ほぼすべての項目について、全国の肯定的回答比率と同じ、もしくは上回る項目が児童生徒質問紙両方で多くみられました。

欄外に付けてあります◎は、全国比率を3ポイント以上上回った項目です。児童質問紙は小学校で30項目、生徒質問紙は中学校で35項目にのびりました。

また、印はついていませんが、全国比率と同等、もしくは2ポイント以上上回った項目は、小学校で32項目、中学校で23項目に達しました。

▼は、全国比率を下回った項目です。小学校で7項目、中学校で11項目です。主に家庭生活や家庭学習に関わる項目が全国平均を下回る傾向がみられました。これは、市の平均と県の平均、全国の平均を比較したものです。各学校においては、自分の学校の平均と市・県・全国のそれぞれの平均を比べたうえで、質問項目で下回っているところは、今後対応を考えていくこととなります。大きく上回っているところは、さらに維持し、強化していく対応をとると思われれます。テストの数値のみでなく、質問項目で児童生徒の状況をとらえて、今後の指導に生かしていくことも重要だととらえています。

学校支援課からの説明は以上になります。

○教育長

ありがとうございました。ただいまの説明に質問やご意見がありましたら、委員の皆さまからご発言をお願いいたします。

○市嶋委員

よろしく申し上げます。

コロナ禍の中で、子供たちが自主的に勉強し学習意欲を落とさないでいることは大変だったと思います。先生方の指導を含め、士気が落ちていないというのも素晴らしいことだと見ていました。

2点質問があるのですが、インターネットの利用時間が家にいる時間が長かったこともあり、心配だなという親御さんも多いと思います。少し長く使ってしまう子が多いのかと思います。勉強に使っているとか遊びに使っているとかこれでどこまでわかりますか。

どういう風にアンケートを聞かれているのでしょうか。

○学校支援課長

報告の2をご覧ください。質問番号の(4)「携帯・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問がありまして、「守っている」というのは、小学生で下回ってい

る結果です。また(5)「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム等を行いますか」という質問は、小・中学生で全国平均を下回っています。4分の1の子どもが「しますか」という質問に肯定的に答えているということです。

(18)(19)(20)に、家庭での学習時間が新潟市の平均が全国に比べて低い部分ですが、インターネットを活用して学ぶ時間を含むとありますが、(4)(5)では使っているという状況があり、勉強にインターネットを含むとありながら、全国平均を下回っていることを考えますと、使っているが勉強に使っている率がさほど高くはないと見えてくると思います。

○市嶋委員 今後インターネットを使った学習方法は課題になってくると思います。これは全国のアンケートなので、中身は変えられないのですよね。

○学校支援課長 はい、そうです。これが5月末に実施していきまして、新年度スタートしてGIGAスクールも昨年12月末には全ての学校に配付されていましたが、本格的に使い始めたのは今年度に入ってからと考えると、5月以降学校の活動が進んでいくことで、このあたりの数値も来年度以降変わっていくとらえています。

○市嶋委員 もう1点が全国的に不登校のお子さんが増えてきていますが、そのようなお子さんの調査は、どのくらいですか。自分で答えられる子どももいれば、接点もてない子どももいると思います。不登校のお子さんの実態と調査はどれくらい入っているのでしょうか。

○学校支援課長 不登校のお子さんは学校に来ていないということになりますと、この調査を受けていないということになるかと思しますので、含まれていないと思います。

○市嶋委員 そのようなお子さんの学習の状況は、個別に確認していくしかない状況でしょうか。

○学校支援課長 不登校、不登校傾向の児童生徒の質問の回答は、なかなかまとまったものは難しいかもしれませんので、個別に各学校の方で、全ては無理にしても生活の状況や意欲の面は把握するしかないかと思えます。

○市嶋委員 はい分かりました。ありがとうございます。

○齋藤委員 よろしいですか。先ほどの(5)の質問の単位は何でしょうか。分ですか。時間ですか。

○学校支援課長 それはゲームをしますか、という質問に「はい」と答えたものです。

○齋藤委員 質問には一日当たりどれくらいの時間と書いていますので、おそらく時間を答えているのだと思うのですが。

○学校支援課長 そうですね。

○齋藤委員 それから(18)(19)も一日当たりどれくらいの時間勉強するのかと書いてあり、17時間など。17時間はないですね。単位が分からなくて感覚がつかめません。

○学校支援課長 そうですね。数値に対しての率なのですが、何について答えたかというのここからは読み取れませんね。今、具体的な質問紙を手にしてい

- ませんので、すみません。
- 齋藤委員 どれくらいの時間になるのか知りたかったので。
- 田中委員 今の(5)の質問について、子どもたちは次の中から選択しています。
①4時間以上 ②3時間以上4時間未満 ③2時間以上3時間未満
④1時間以上2時間未満 ⑤1時間未満 ⑥全くしない この中から選
択して、数値化しているということです。
- 齋藤委員 それはどのようにして数値化しているのでしょうか。
- 学校支援課長 そのうちのどこを27.5としたのか、把握しておりませんでした。申し訳あ
りません。
- 田中委員 実はその質問をしたかったのです。先ほど課長はその数値は平均とお
っしゃったが、平均ではないですよ。
今の(5)は平均などしようがないです。おそらく過去の調査結果を見
ると①と②の数値を合わせています。
「そのとおり・だいたいそのとおり・どちらかというとそのとおりではない・
まったくそうでない」とあるとすると、「そのとおり・だいたいそのとおり」を
合わせて、その部分の人数の割合と私は見ているのですが、そこを聞き
たいのです。
- 学校支援課長 数値を出した担当者が同席しておりませんので、申し訳ありません。
後ほど調べておきたいと思います。
- 市嶋委員 アンケート自体はもらえないのですか。
- 学校支援課長 後ほど準備してお渡します。
- 市嶋委員 それがあれば分かると思います。
- 田中委員 それはネットで見られます。
- 教育長 では、小野沢委員お願いします。
- 小野沢委員 それと同じように(67)ですが、「新型コロナウイルスの感染拡大で多く
の学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあつ
たとき、どのようにしていましたか。(複数選択)」となっていて、これも
42.3の出し方が分からないと思いました。
- 学校支援課長 他の複数の中から選んだ他の率を取ってということです。
- 田中委員 子どもたちは次の中から選択しています。①先生 ②友達 ③家族
④1・2・3以外の人 ⑤自分で ⑥分からないことをそのままにした ⑦分
からないことがなかった ⑧思い出せない
この中から複数選択をしています。
- 小野沢委員 この中から選んで、それが42.3というのが、どれか。
- 田中委員 それがどこなのかということで、おそらく①先生 ②友達だと私は思っ
ています。そこを聞きたいです。
- 小野沢委員 同様に県も全国も同じ出し方をしているのですか。
- 学校支援課長 肯定的評価という率を出していますので、肯定的評価を選択肢のどこ
で区切るかだと思いますが、手元に資料がございませんので。
- 田中委員 今の肯定的評価といったときに、「先生」と「友達」を選択したのが肯定

的と捉えて良いのかというのが、また問題になってきますよね。

似たようなことが新潟市の意識調査の中で前にありましたが、そのままにしておくのはよくないけれども、自分の力で解決したのならば良いのではないかと、私は以前言いました。これもどれを選ぶかではなく、子どもたちの傾向を探るということだろうと思います。

○市嶋委員 (30)「あなたは家でどれくらい日本語を話しますか」という質問はどういう趣旨の質問ですか。

○学校支援課長 今、選択肢が分からないのですが。

○田中委員 それは、①いつも ②ほとんどいつも ③ときどき ④まったく話さないです。

これはおそらく文部科学省は、日本人ではない子どもたちがどの程度学校に在籍していて、どの程度日本語を使っているのかを探っているのではないかと、私は思いました。

○学校支援課長 このようなお子さんに対する指導が今後国の方でも重点をかけていく事が予想されますし、新潟市でもそのような対象のお子さんが増えてきているのは事実です。

○市嶋委員 はい、ありがとうございます。

○教育長 ほかにございますか。大宮委員お願いします。

○大宮委員 資料1の学力についてです。新潟市と全国、県とありましたが、政令市の中で新潟市はどれくらいの位置づけなのか、資料はありますか。データがあれば教えていただきたい。

○学校支援課長 そこについては公開用の資料が手元にはあるのですが、準備しておりませんので、後ほどお伝えしたいと思います。

○田中委員 お願いいたします。課長に代わりたくさん話してしまい、申し訳ありませんでした。いくつかあります。よろしくお願いします。

昨年度コロナ禍の中で本当に厳しい状況の中、各学校では先生方が一生懸命指導した結果が表れていると思います。

報告1の数値はもちろんですが、報告2,3,4,5の意識調査にも綿密に表れているなど。小学校も中学校も先生方の努力に感謝申し上げたいと思っています。本当にありがとうございました。

その中で、いくつか気になったものがありますのでお話しさせていただきたいと思います。

質問事項の(27)「学校でICT機器をどの程度使うか」という質問ですが、全国との比較で小学校ではプラス22.0ポイント、中学校ではプラス26.7ポイントと断トツです。ここが全部の質問の中で全国との比較で一番高い数値です。これは、新潟市がGIGAスクール構想で早めに各学校に働きかけ、それぞれの学校や教科担当の先生が中心となって、児童生徒への指導をした表れだと思っています。

先ほどの課長のお話にありましたが、(34)から(41)番でずっと◎が続いています。この辺りは、どちらかという、話合いの事が書かれていま

す。実は新潟市で「支持的風土をしっかり作っていきましょう」、「コミュニケーション能力を高めていきましょう」と何年も前から言われてきていて、今その実が結集してきているのだと思います。子どもたちが普段から自然のな形で、いろいろな周りの人たちと話し合いを通して、力をつけてきているということが分かります。

先般9月12日の新潟日報の「きらきらキラリ」に西区の小学生が投稿していました。国語の授業で「どちらを選びますか」という単元があり、校長先生がペットを買うのですが、犬が良いのか猫が良いのか、皆さんどうですかという内容でした。これを子どもたちがタブレットを使って調べ、犬はこんな良さがありますよ。猫はこんな良さがありますよ。と調べて話し合ったということです。この子はコロナでなかなか話し合いをする授業が減ってしまって、話し合いの授業が好きなので、とても残念だと書いてありました。

このようなことが子どもたちに、本当に力として備わってきている。これが紙面にも載ってきているのはすばらしいと思い、述べさせていただきました。

また別の目から見ますと(7)「将来の夢や目標をもっていますか」の数値は、全国平均を少し高いくらいでほぼ全国並みで、ここ4、5年ずっとそんなに変わらないです。

でもこの3年間を見ると、明らかに小学校も中学校も下がってきており、全国よりも少し良いのですが全国同様数値が下がってきています。

新潟市は教育ビジョンのキャリア推進事業の中で、「将来の夢や目標を持っていますか」ということが指標になっているはずですが、しかし、全国学力・学習状況調査の結果は下がってきている。この辺について、なぜ下がってきているのかを学校現場と教育委員会と一緒に考えながら、子どもたちが将来に対して夢を持って輝いていけるような社会をつくっていければと思います。

(24)「今住んでいる地域の行事に参加していますか」(25)「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」で、地域の行事に参加するは、小学生は平成28年からずっと全国のより10ポイント以上高くなっています。中学校も平成29年以降全国を上回っていて、上回る数値がどんどん大きくなっています。これは、地域と連携しながら、児童生徒を育んでいこうという教育委員会の考え方と、各学校の地域との連携が非常に良い形で表れてきている証だと思っています。

良い結果が多くありますので、ぜひまた教育委員会事務局で分析をかけて学校にフィードバックして欲しいと思います。以上です。

○教育長

質問でなくてよろしいですか。田中委員の分析はこれからだと思います。

○学校支援課長

ありがとうございました。色々な項目の数値の根拠を正確に把握しておらず、申し訳ございません。今いろいろお話がございまして、項目に

ついて分析をして各学校に発出してまいりたいと思います。テストの部分の数値の結果の平均に一喜一憂するのではなく、委員の皆さまからご指摘いただいた様々な項目について、子どもたちの捉え方がどうであるかにスポットを当てて、今後の授業や指導のあり方に生かしていこうと思っております。ありがとうございました。

○教育長

他にご発言があればお願いします。渡邊委員お願いいたします。

○渡邊委員

資料1で、国語も算数も数学も上回っていることは、例年通りで良かったと思います。特に中学生が国語より数学にだいぶ差があり、苦手意識があるのかと思われるのですが、小学校の時はそれほど国語と算数の差がないのに、中学では全国でそうなのだと思いますが、国語と数学の差ができてきているというところが気になります。

また、質問の項目のところで、特に中学生が(53)から(59)で数学の授業が重要だと意識していて前向きな姿勢だと感じますが、それが理解や点数につながらないのは残念だと個人的に感じました。

そのあたりはどのように分析しているのか分かりましたら、教えてください。

○学校支援課長

ご指摘のとおり、中学校は国語の全国平均の差に比べて、数学の方がやや少ないというのは、おっしゃる通りです。それがなぜであるかは、一概に言えない部分があると思います。ただご指摘いただいた質問紙(53)から(60)あたりは、中学校の方は◎が続いています。非常に数学に対する意欲や姿勢は伝わってきていますが、数値自体に結びついていないという現状があると思います。全国平均の差は国語にくらべると少し少ないですが、決して低いわけではありません。中学校については、ここ数年間で授業改革も進んでおり中学校の先生方の意識も高まってきていると捉えています。数値の前後は、他の自治体の頑張りにより左右されますので、それより◎がたくさん中学校の方に並んだということを前向きに評価したいと思います。

○渡邊委員

先生たちが頑張っておっしゃっていると実感しました。家庭教育の時間数が少ない中で、学校の授業で頑張っておっしゃっているのだと感じました。ありがとうございます。

○教育長

乙川委員お願いします。

○乙川委員

全体的に、数値的にとてもすばらしいものがたくさんあり、現場の先生の努力の賜物だと感じています。先ほど田中委員もおっしゃったように、子どもたちの話し合いの授業が減った部分に投書があったと伺いましたが、タブレットを使ったところで、勉強以外の事に使っているというものがアンケートの中でも出てきています。(11)「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」は、残念なことなのですが100にはならないのだとみえています。(13)「学校に行くのは楽しいと思いますか」も84.1で素晴らしい数値の中で、子どもたちがコロナ禍で声にできないストレスもここに隠れているのかなと感じました。

他県でタブレットによる痛ましい案件があります。市の方でも各学校にお便りを出したと伺いましたが、始まったばかりですのでモラル教育として、繰り返しその部分を周知していただきたいとお願いしたいです。

○教育長

次の案件にまいります。令和3年度 新潟市教育委員会表彰 被表彰者の選考結果報告については、公表前であることから、非公開としたいと思いますが、ご異議ありませんでしょうか。

(異議なし)

それでは、公開案件の終了後に非公開案件として再開し、審議します。

続きまして、日程第4 次回日程について、教育総務課から説明をお願いします。

第4 次回日程

○教育総務課長

10月の定例会は10月29日(金)、時間はいずれも午後3時30分からを予定しています。よろしくお願いたします。

第5 公開終了

○教育長

以上で公開案件を終了します。これより定例会を非公開といたします。

傍聴人・報道の方はご退席をお願いいたします。

第6 定例会(非公開) 付議事件

○教育長

これより定例会を再開し、付議事件に入ります。

はじめに、議案第20号 教職員の人事措置について、学校人事課から説明をお願いします。

議案第20号 教職員の人事措置について説明 → 承認

第7 定例会(非公開) 報告

○教育長

次に報告案件に入ります。令和3年度 新潟市教育委員会表彰 被表彰者の選考結果報告について、学校人事課から説明をお願いします。

令和3年度 新潟市教育委員会表彰 被表彰者の選考結果報告について報告

第8 定例会閉会

○教育長

これで定例会を閉会いたします。

以上、会議のてん末を承認し、署名する。

署名委員

齋藤 昭彦

署名委員

乙川 千香